

平成 27 年度第 2 回（通算第 72 回）

山口国際文化化学研究会へのおさそい

教員世話人 稲田秀雄

院生世話人 王 星慧 小野飛鳥 岡村理恵 小川大貴

日時 平成 27 年 5 月 27 日（水曜日）16 時 10 分より
場所 国際文化学部棟 C-12 教室
主催 大学院国際文化化学研究科

発表者 渡辺 滋 国際文化化学研究科准教授

タイトル 「史料としての和紙—その歴史と特質—」

要旨

日本社会に中国から製紙法が伝来したのは、古代のことである。それ以降、植物繊維を材料として手漉きされる紙は、書写材・包装材などとして社会のなかで不可欠な役割を担い続けてきた。そうした過程における紙質改良に向けての試行錯誤の結果、現在では世界の手漉き紙が「WASHI」と総称されるほどの状況すら生じている。しかし一方、和紙に関する学術的な研究は近年ようやく緒に付いたばかりという心細い実態も否定できない。

こうした状況を改善するため、わたしは十年ほど前から紙繊維の専門家などと共同で、歴史史料としての和紙の特性やその変遷に関する調査研究を続けてきた。今回は、まず和紙の歴史を概説したうえで、これまでの調査において蓄積した画像データなどを積極的に示しつつ、とくに歴史史料としての和紙の特性や変遷に関する研究の最前線を紹介したい。

※終了後、第二部として自由なトークを展開できる場（山口国際文化化学 SALON）を準備しております。こちら皆様のご参加をお願いいたします。